



## 戦国時代の本拠・本佐倉城と千葉のまちを結ぶ街道上の城

高品城は、台地を利用した戦国時代の城郭です。この時代、千葉氏の本拠は本佐倉城（佐倉市・酒々井町）へ移っていました。しかし、厚く信仰する千葉妙見宮（現在の千葉神社）がある千葉は変わらず重要な地で、千葉と本佐倉を結ぶ街道上にある高品は、千葉の出入り口をおさえる軍事的要衝でした。

千葉妙見宮に伝わった『千学集抜粹』に、戦国時代の千葉氏嫡男の元服（成人の儀式）の記事があります。これによると、永正2年（1505）に行われた千葉昌胤の元服では、本佐倉城から500騎の騎馬行列を組み、まず高品城に入ります。ここで重臣が諱（元服後の名前）の候補を三つ受け取り、妙見宮へ赴き、神前でくじを引いて一つを選びました。昌胤はこれを待って、家臣たちと妙見宮に参り、宴を開いたと記されています。高品城はこうした儀式でも大切な機能を担っていたのです。

隣接する等覚寺の薬師如来坐像は、胎内の銘文から、千葉邦胤の元服が行われた元亀2年（1571）に、高品城主の安藤氏らが造立したことがわかっています。

### 発掘調査からわかる高品城

1995～6年に行われた発掘調査により、本丸に当たる主郭は崖を生かして台地の西端に置かれ、Ⅱ郭とⅢ郭とを区切る空堀には木橋が架けられるなど、厳重な防御の仕組みを持っていたことが判明しました。また、埋葬された馬や直径約90cmの常滑焼の大甕なども見つかっています。

